

## 会議録

会議の名称	西東京市文化財保護審議会 平成22年度第2回会議
開催日時	平成22年9月10日（金曜日）午後2時から
開催場所	保谷庁舎3階 第2会議室
出席者	委員：都築会長、石井委員、鈴木委員、多々良委員、近辻委員、山下委員 （欠席：並木委員） 事務局：磯崎課長、神田係長、諸岡主事、亀田文化財保護専門員
議題	1 前回会議録の確認 2 報告事項 （1）埋蔵文化財の調査について （2）夏企画事業について （3）文化財ウィーク2010事業について （4）南入経塚について （5）下野谷遺跡の指定について （6）国登録文化財候補物件について 3 その他 （1）次回会議日程について
会議資料の名称	資料1 埋蔵文化財調査一覧（平成22年5月21日～9月10日） 資料1-2 埋蔵文化財調査地 資料2 夏休み企画事業報告 資料2-2 夏休み郷土資料室ワクワク講座「自分だけの縄文時代の家を作ろう！」 資料3 文化財ウィーク2010参加事業 資料4 南入経塚の移築保存などについて 資料4-2 南入経塚の移築保存などに関する経過 資料4-3 説明板など設置および復元例（一里塚の例） 資料4-4 西東京都市計画道路3・2・6号調布保谷線と既存市道等との接続および横断歩道設置計画平面図 資料4-5 西東京都市計画道路3・2・6号調布保谷線完成イメージ図 資料5 下野谷遺跡の指定について 資料5-2 国および都指定史跡候補としての東京都あて概要書 資料5-3 下野谷遺跡全体概念図 資料5-4 下野谷遺跡の既調査地点 資料5-5 下野谷遺跡全体図（西側部分） 資料5-6 下野谷遺跡全体図（東側部分） 資料5-7 東京都文化財保護条例抜粋（第33・34条） 資料5-8 分析対象地域に分布する拠点集落の概要 資料6 国登録文化財（建造物）候補物件について

	・みんなの生涯学習No. 101
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>○都築会長： 定足数に達しているため、文化財保護審議会平成22年度第2回会議を開催する。</p> <p>○事務局： 7月5日付で関根委員より辞任したい旨の願いが提出された。7月27日の教育委員会にて7月31日付で解嘱が決定されたので報告する。</p> <p>議題1 前回会議録の確認 前回会議録について、2箇所修正後、確定した。</p> <p>議題2 報告事項</p> <p>(1) 埋蔵文化財の調査について ・資料に基づき、事務局より説明を行なった。補足説明は以下のとおり。 3件の発掘調査を行った。番号3は前回報告したように、旧石器が出土した試掘の結果を受けて、調査を行ったが、今回は出土遺物がなかった。</p> <p>(2) 夏企画事業について ・資料に基づき、事務局より説明を行った。</p> <p>(3) 文化財ウィーク2010事業について ・資料に基づき、事務局より説明を行った。補足説明は以下のとおり。 文化財めぐりについては、市民のボランティアの協力（道の会）を得て、ガイドをお願いする。 写真展「写真でみる西東京市の今と昔」については、保谷公民館の「西東京市の歴史を守る」講座の受講者の中からできた定点撮影グループが、郷土資料室にある古い写真と同じ場所の撮影しており、それを合わせて展示する。 第2回民具展示「屋敷林とむかしの暮らし」については、かつて下保谷では藍玉作りが盛んだったことから、藍染めも行う。</p> <p>○石井委員： 今、市内に屋敷林を持つ家は何軒ぐらいあるのか。</p> <p>○事務局： 10軒もないのではないか。</p> <p>(4) 南入経塚について ・資料に基づき、事務局より説明を行なった。補足説明は以下のとおり。 平成19年に、東京都の担当者から、都としても、南入経塚の存在を伝えるものを残す</p>	

認識はあるという話をもらっている。また、その実施に向けては、市の具体的なイメージを示して欲しいとのことであった。今回、完成する道路の計画も明確になってきたので、事務局で資料4に説明版の設置例などを写真で示した。設置場所も含めて、調整をかける段階なので意見ををお願いしたい。

○近辻委員：

平成21年度には「都としては設置は困難である」と書いてあるが、どうなのか。

○事務局：

平成19年度の段階でも確実に行うということではなかった。

基本的には文書では残っておらず、口頭でのやりとりとなっている。北南建の担当者は変わるのが早く、対応経過の変化にも現れている。

○石井委員：

移築された石碑などを将来、市としてどうするか考えてほしい。

○都築会長：

石碑は塚とセットであるのが望ましいが、大型の石碑なので、安全の問題など非常に難しい。また、その他に宗教的な問題もある。現在は福泉寺に仮置きしており、守られているが、今後も福泉寺が置き続けてくれるかどうかはわからない。

とりあえず、石碑の問題もあるが、今までの話もあるので、案内板は文審として必ず設置の方向であげていく。

○近辻委員：

できるだけ経塚のあった範囲に設置してほしい。

(5) 下野谷遺跡の指定について

○都築会長：

下野谷遺跡の指定について事務局からお願いしたい。

○事務局：

・資料に基づき、事務局より説明を行なった。補足説明は以下のとおり。

今回の審議会で教育委員会からの諮問を受ける予定だったが、前回の審議会後に行われた、文化庁調査官の視察の結果、都あるいは国の史跡指定の可能性がでてきた。したがって、8月20日付で東京都教育庁宛に概要書を提出した。今のところ下野谷遺跡については都とも話をしながら調整しているところである。

○都築委員：

文審としては、市の指定にする方向で進めてきたが、国と都の担当者の視察の結果、市指定よりも国・都指定をめざす方が良いのではという評価をいただいた。

○石井委員：

市がどういう姿勢で取り組んでいくか。どういう方向で下野谷遺跡を東京都や国中で

位置づけるのが重要だ。大きなプロジェクトを作って計画をもたないと、都や国の指定にはならない。

○都築委員：

環状集落の国指定はない。さらに、双環状集落は非常に貴重で、埼玉県にあるが、その遺跡はもう無くなっている。唯一の遺跡なので護れるよう、国の指定を受け、補助金で町づくりも含め、進めてはどうか。

○近辻委員：

8月20日に、事務局が都の担当者に情報提供したということでのいいのか。

○事務局：

はい。

○近辻委員：

双環状集落の話がでたが早稲田大学の方はそんなに壊れていないのではないか。

○事務局：

資料のとおり、西と東に環状集落が広がっている。全体をみると発掘されているのは遺跡の10分の1ぐらい。ただし、掘られているのはほとんど東側になる。

○都築委員：

貴重な遺跡であり、文化財担当だけでは難しいので、町づくり、都市整備等いろいろなところと連携して行ってほしい。一般的な話だと市の指定にしまうと、それでもういいのではないかということになる。

○石井委員：

遺跡の範囲をどこまで広げて対象とするか、それを決めないと動けない。

○事務局：

近く、東京都の担当者と当市の教育部長も交えて話をする事になっている。その中である程度状況がわかり、報告ができると思う。都への情報提供の前に臨時の文審を開催し、報告、相談をしようかとも考えたが、急な話で、日程的に困難だったこともあり、教育部長との協議の中で、とりあえず、東京都には情報提供だけは出しておこうと決めさせていただいた。

○都築会長：

常に審議会の中で、市の指定に加え、都や国の指定ということを議論してきた。今回、国の担当者も認識してきたのでよかったと思う。今後は、事務局と都との調整の結果をうけながら、下野谷遺跡の指定をどのようにしていくか審議を続けたい。

(6) 国登録文化財候補物件について

○都築会長：

次に国登録文化財候補物件についてお願いしたい。

○事務局：

資料に基づき、事務局より説明を行なった。補足説明は以下のとおり。

所有者より、住宅を登録文化財にしたいとの連絡があり、事務局から東京都へ情報提供をした。今の段階では東京都担当者から文化庁へ情報提供をしている。登録文化財になるとしたら平成23年度となる。

3 その他

○都築会長：

先ほど下野谷遺跡の指定について、都の指定も考えることとなった。実は、出土品でも、指定に足るような資料があると考えているので、次回の審議会では、候補資料を作ってきたと思う。

○近辻委員：

来年度予算について、どのぐらいの規模なのか。

○事務局：

来年の予算要求はこれから。昨年度の決算も今月中に行う。予算の策定は10、11月となってくる。

来年度は、市制10周年にあたる。予算が確定しているわけではないが、議会の一般質問の中でも市内の文化財の普及・活用が必要だと意見もあり、検討する必要がある。

もう1つ郷土資料室のクーラー取付けについて、夏は猛暑で来室者に対して不便をかけた。展示物の保存にも悪影響を与えるので、予算要求をしていく予定。できれば改装などもできるといい。専門員が1人なので身動きができない状況もあり、管理の部分と分けて運営する形も考えてみたい。

その他、社会教育という部分でいうと、組織改正をした中で社会教育という位置づけが非常に見えにくくなっており、明確にしていく必要がある。文化財も同様で、なかなか西東京市の中で、文化財がどのように位置づけられるのか見えにくいことがある。総合計画の中でも、文化財の保存というだけではなく、例えば町づくりの視点まで高めることができるのかというようなことを考えていく必要がある。来年の10周年にあわせて何らかの事業展開ができればと考えている。例えば下野谷遺跡のマスコットがありながら、なかなか活用されていないが、そのようなものも活用し、もう少しイメージが広がるようなものができるといい。

○近辻委員：

登録文化財制度も考え、ぜひ文化財の悉皆調査をやってほしい。その後データを揃える必要がある。さらに早稲田大学が保管している遺物についても考えていただきたい。それを企画にもっていくのはいい。

○事務局：

事務局でも、市内の文化財の現況を把握したうえで、どのような形で整理、活用すべきかを考えたいと思っている。次回審議会には、今後どういった部分から進めていくか

などを出していければと思っている。

○都築委員：

緊急雇用なども有効に使い、基礎的な調査をするように考えてほしい。

○近辻委員：

郷土資料室について、展示室が5つあるが、太平洋戦争のコーナーと青梅街道の町並みを一部屋とはいわないが目玉として作っていただきたい。

○事務局：

リニューアルについては前々から検討中で、ご指摘のテーマも話し合われている。

○石井会長：

保谷時代からずっと見てきているが、やはり専門職採用が必要である。

次回会議日程について

・平成22年12月3日（金曜日）午後2時より開催することになった。

○都築会長：

以上で本日の会議を終了する。